

# 鶴岡市地域まちづくり未来事業計画

平成31年3月



鶴岡市

## 目 次

### 1 地域まちづくり未来事業計画について

(1) 策定の趣旨	.....	1
(2) 計画期間	.....	1
(3) 計画の位置付け	.....	2
(4) 財源について	.....	2

### 2 地域振興の方針と施策の方向について

(1) 鶴岡地域	.....	3
(2) 藤島地域	.....	4
(3) 羽黒地域	.....	5
(4) 櫛引地域	.....	7
(5) 朝日地域	.....	8
(6) 温海地域	.....	9

### 3 実施事業について

(1) 鶴岡地域	.....	1 2
(2) 藤島地域	.....	1 3
(3) 羽黒地域	.....	2 3
(4) 櫛引地域	.....	2 8
(5) 朝日地域	.....	3 5
(6) 温海地域	.....	4 3

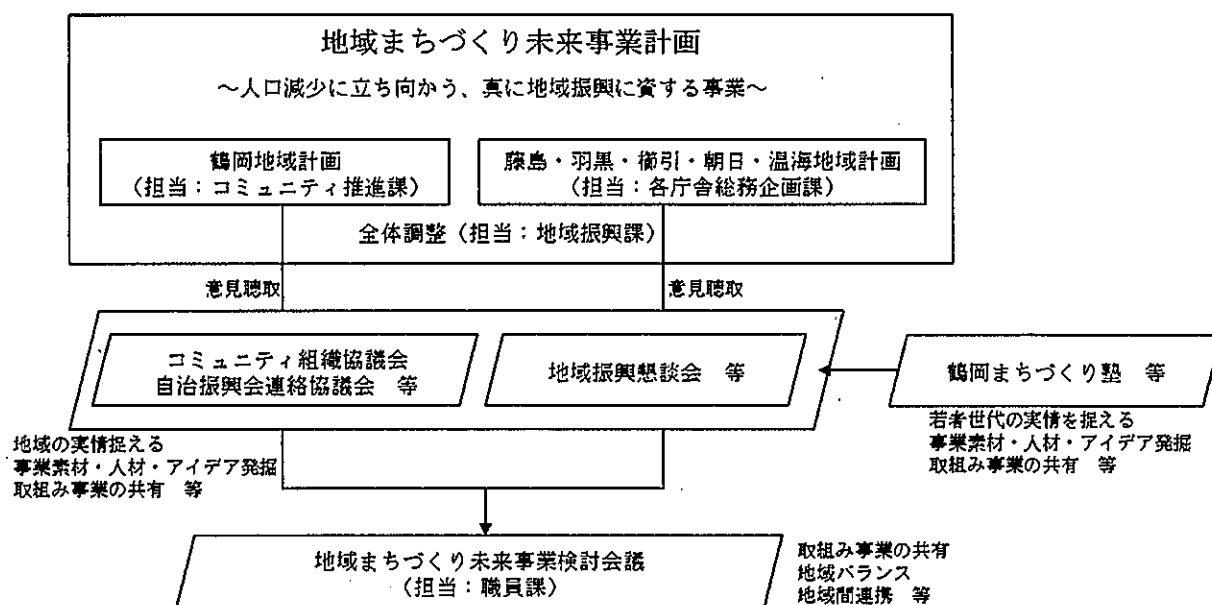
# 1 地域まちづくり未来事業計画について

## (1) 策定の趣旨

「地域まちづくり未来基金」の設置目的である「地域社会・コミュニティの振興及び均衡ある発展」を図るため、「人口減少に立ち向かう、真に地域振興に資する」事業を地域まちづくり未来事業として実施することとし、これを地域まちづくり未来事業計画の中に位置づけ明らかにします。

地域まちづくり未来事業計画に基づいて地域ごとに事業を実施することにより、魅力あるまちづくりを推進するものです。

また、策定にあたっては、全ての地域が個性を発揮し、その魅力を高めるとともに、人材を育成していくまちづくり活動を活性化できるよう、各地域振興懇談会や鶴岡まちづくり塾、地域まちづくり未来事業検討会議など、様々な場面において地域の意見を伺い反映しています。



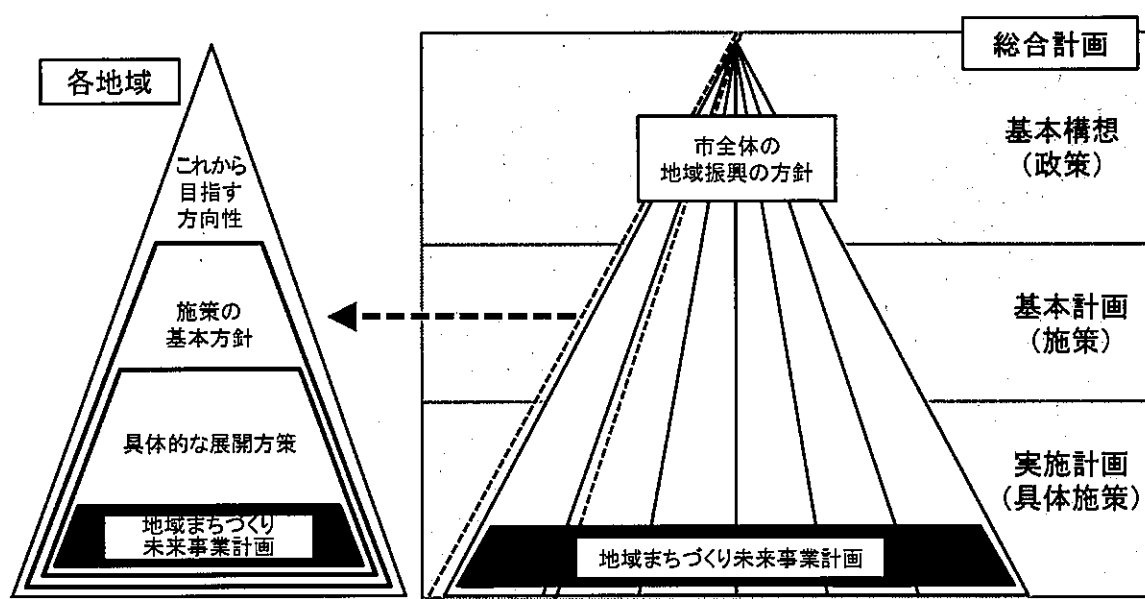
### 【地域まちづくり未来事業計画策定のイメージ】

## (2) 計画期間

2019（平成 31）年度から概ね 3 年程度とし、年度ごとに見直しを行います。

### (3) 計画の位置付け

地域まちづくり未来事業は、第2次総合計画（計画期間：2019（平成31）年度から10年間）及び各地域の地域振興計画（計画期間：2019（平成31）年度から5年間）において、地域振興の方針を実現するためのより具体的な施策として位置づけられます。



【総合計画と各地域の地域振興計画、地域まちづくり未来事業計画の関係】

### (4) 財源について

地域まちづくり未来事業は、主な財源として「地域まちづくり未来基金」を充てるほか、起債や国・県等の交付金なども活用します。

## 2 地域振興の方針と施策の方向について

### (1) 鶴岡地域

#### ○地域振興の方針

鶴岡地域では、社会情勢の変化を捉えて、全国に先駆け住民の自主的なコミュニティ活動の拠点づくりを進め、平野部から中山間部、海岸部にわたる多様で豊かな環境のもと、特色ある地域づくりを押し進めてきました。

このような地域の優れた特性を次世代に継承し、誇りと愛着を持って暮らしていけるまちを創るため、市民によるコミュニティ活動のさらなる推進とその担い手の育成をめざし、鶴岡地域にとどまらず市全体の地域振興の方向性として、「まちづくり」、「ひとづくり」の取組を進めます。

#### ○施策の方向

##### ア 未来を見すえた住民主体のまちづくりの推進

住民が主体となった「地域ビジョン」の策定を支援し、多様で複雑な課題を持つ市街地部及び郊外地部それぞれの地域の実情に対応しながら、地域の特性を最大限に発揮できるような課題解決力のあるコミュニティの構築に努めます。

また、鶴岡地域が、城下町としての面影や歴史的風情を保ちつつ、医療、福祉、商業、学術などの都市機能が集積され、地域の活力を維持する中心的な役割を果たすなかで、人が集まりやすい立地の特性を生かし、様々な人々が集い交わる場を創ります。

こうした、多様な交流から新たな価値を生み出し、地域を元気にしていく芽を育て、未来を見すえた住民主体のまちづくりを推進します。

##### イ 地域の明日を担う人材の確保・育成

地域がその特性を踏まえて自ら考え、地域づくりに取り組んでいけるよう、若者がいきいきと活躍できる環境を整え、多様な学びの場を創出します。

また、自然、歴史、文化など特色ある地域資源を活用した地域づくり活動を支援し、地域の明日を担う人材の育成を図ります。

## (2) 藤島地域

### ○地域の基本方針

藤島地域は、多くの農業関係機関・団体などが集積し、先進的な農業に取り組む意欲的な農家が多く、特に稲作においては、庄内地方の農業の中心的役割を担ってきた地域です。このような地域特性を生かしながら、今後も重要な食糧生産地の一翼を担い、また、安全で良質な、「人と環境にやさしい農業」を実践する地域であることを強みに、農業を核とした地域づくりを推進します。

これまで築き上げてきた豊かな田園文化を継承しつつ、稲作に新たな園芸作物などを取り入れた複合的農業経営への転換を図り、農家の所得向上をめざした取組を行います。

藤島地域がこれまでまちづくりに活用してきた「ふじ」や伝統芸能である「獅子踊り」など、地域が育んできた貴重な歴史と文化を次世代にしっかりと継承していく取組を進めます。また、藤島歴史公園「Hisu 花（ヒスカ）」を新たな資源として活用し、市内外の交流の拡大を図ります。

依然として進む少子高齢化に伴う人口減少を見据え、地域内の生活基盤を再構築する取組や高齢者がいきいきと暮らせる仕組みづくり、地域特性に即した防災力の強化など、住民が安心して生活し、暮らしやすさを実感できる施策を展開します。

### ○施策の方向

#### ア 豊かな田園文化の継承と水田農業革命の実現

人と環境にやさしい農業の取組を継続し、安全・安心な農産物の拡大と産地ブランド化、地産地消の取組を進めます。また、稲作を基幹としながら園芸作物の生産拡大を図り農家所得の向上をめざすプロジェクトを展開します。農業が縁となり、これまで築きあげてきた首都圏大学との連携や優れた人材を輩出し、地域の農業を支えてきた庄内農業高等学校などの教育機関との連携を強化します。

- ①藤島発！！鶴岡の米プロジェクト
- ②藤島発！！園芸作物拡大プロジェクト
- ③食農教育等を通じたふるさと意識の醸成
- ④庄内農業高等学校・首都圏大学との地域連携の推進

#### イ 歴史と文化、交流が彩るふじのまちづくりの推進

藤島地域を象徴する「ふじ」と獅子踊りなどの「伝統芸能」は、今後も重要なまちづくりの資源と捉え、地域に活力を生み、住民が誇りと愛着を持てる地域づくりにつなげていくとともに、地域内外にその魅力を発信し、交流人口の拡大と賑わい創出を図ります。また、ふじのまちのシンボル施設として整備した藤島歴史公園「Hisu 花」と隣接する東田川文化記念館を活用した

地域づくりの推進やそれに関わるボランティアの育成などに取り組みます。地域の資源や特性を生かした取組を一層発展させながら、多様な人々の関わりによる歴史と文化、交流が彩るまちづくりを推進します。

- ①藤島歴史公園「Hisu 花」を活用した藤島地域の魅力発信
- ②住民協働による藤棚等の適正な維持管理の推進
- ③伝統芸能の育成と地域コミュニティづくり
- ④ふじの花による観光振興の促進

#### ウ 暮らしやすい“藤島”を実感できる生活基盤の再構築

この地域に住みたいと思えるような、暮らしやすさを実感できる生活基盤の再構築に向けて、若者世代から選ばれる地域をめざした住環境の整備等を図ります。

地域公共交通のあり方など高齢者が社会参加しやすく、いきいきと充実した生活を送れるような仕組みを地域と協働で検討していきます。

- ①自立分散型インフラ整備の推進
- ②健康でいきいきと暮らせるしくみづくり

### (3) 羽黒地域

#### ○地域の基本方針

羽黒地域は、出羽三山とその門前町、史跡松ヶ岡開墾場、ミシュラン・グリーンガイド・ジャポンで高い評価を得た羽黒山杉並木や国宝五重塔など、歴史的な観光資源に恵まれた地域です。

少子高齢化や人口減少が進む中でも、地域資源を活用し、活力にあふれる地域づくりを進めていきます。

観光面では、羽黒地域の歴史文化を広く発信し、国内旅行者のみならず、インバウンドにより海外から訪れる旅行者にも羽黒らしい自然や歴史に触れる空間を提供できる観光地づくりに取り組みます。農業面では、特に中山間地域の特産物である園芸作物の振興と土づくりの推進により付加価値を高めます。また、月山高原エリアでは、既存施設を活用して、人が集い、自然の中で交流が生まれる場所づくりに取り組みます。地域づくりでは、住民が安心して暮らすことができるように、住民主体の活動を支援するとともに、防災対策や生活の足の確保などの地域課題の解決に向けて行政と地域が連携して取り組みます。

#### ○施策の方向

##### ア 人を惹きつけ魅力あふれる観光の推進

手向門前町の修景整備や出羽三山精進料理の魅力発信など門前町として

の魅力向上のための取組を推進します。また、松ヶ岡開墾場については、蚕室などの歴史や魅力を発信する拠点としての保存や活用の整備を進めるとともに、松ヶ岡地域への支援を継続します。こうした取組に加え、インバウンドなどに対応するため、老朽化した既存観光施設の再整備を図るとともに、映画を活用した誘客、観光施設の連携による周遊型の観光誘客施策の強化を図ります。

- ①出羽三山・修験の里再生による歴史文化の継承と発信
- ②松ヶ岡開墾場の歴史的環境の保存・活用による地域活性化
- ③映画ロケ支援等観光連携による周遊・滞在型観光誘客の強化

#### イ 地域の特色を生かし価値を高める農業の推進

羽黒地域の特産物である庄内柿やアスパラガスなどの園芸作物について、高品質な農産物の生産体制の確立、新品種導入や新たな栽培技術の導入を支援し、土づくりなどによる付加価値の向上による産地のブランド化を図ります。月山高原エリアの既存施設については、地域の生産者や民間による有効活用を図り、交流人口の拡大、地域の活性化を図ります。

- ①月山高原エリアの交流人口の拡大による地域活性化と農業振興
- ②園芸作物の産地強化による振興

#### ウ 活力ある地域づくりを担う地域コミュニティの推進

防災、福祉その他の地域課題に対して、自治振興会と連携した市民との協働による取組を進めます。また、住民活動の拠点施設である地域活動センターの計画的な整備、修繕などを図り、子育て世代や高齢者のほか、全ての世代が利用しやすい施設づくりに取り組みます。

高齢者などの交通弱者に対しては、交通手段の確保と充実に取り組みます。

- ①よりよい地域づくりのためのコミュニティ活動支援
- ②市営バス運行の充実による移動手段の確保



#### (4) 櫛引地域

##### ○地域の基本方針

櫛引地域は、本市を代表する果樹の生産地であり、黒川能をはじめとする伝統芸能や、丸岡城跡及び加藤清正墓碑などの歴史遺産が数多く残る地域です。さらには、中央を南北に貫流する赤川や庄内が一望できる中山間地などの豊富な地域資源を有しています。これらの特性を生かすことで、地域内外のたくさんの人々が集い交流する賑わいの創出と、ここに住む人が将来にわたって物心ともに豊かに暮らせる活力ある地域づくりをめざします。

櫛引の果樹生産の特徴である多品目生産と、観光果樹園や産直などの先進的な取組を生かし、「フルーツの里」としてのブランド化と果樹を中心とした産業振興の拠点づくりを進めます。また、農業体験や自然体験の環境整備を進めることで都市部との交流人口の拡大を図り、地域を越えて連携する広域の観光周遊の仕組みづくりに取り組みます。

黒川能を始めとする貴重な伝統芸能の保存と継承を支援し、あわせて観光資源としての活用を図ります。また、赤川周辺の施設や自然、芸術作品などを活用した憩いと賑わいの拠点づくりを進め、地域の活性化につなげます。

少子化や高齢化、人口減少などを見据え、住民の暮らしを守るための、地域コミュニティの維持活性化と、健康で安全で安心な生活が送れる仕組みづくりを進めます。

##### ○施策の方向

###### ア 果樹産地の特色を生かしたフルーツの里づくり

櫛引地域の強みである果樹生産を一層振興し、観光果樹園や加工、直売の6次産業化も促進しながら、地域農業の活性化を図ります。

###### イ 農業自然体験に着目した都市農村交流の推進

農業体験や農家民宿、産直、観光果樹園などと、自然や歴史文化などの地域資源を活用したネットワークを形成し、交流人口の拡大を図ります。

###### ウ 地域を越えて連携する広域観光圏の形成

櫛引地域単独の取組みを越えて黄金地区、朝日地域と本市南部地区の広域観光圏の形成を図ることで、出羽三山と連携した滞在型観光を組成していきます。

###### エ 黒川能など貴重な歴史文化の継承と活用

黒川能や丸岡城跡など貴重な歴史文化資源と、これらの連綿とした地域の伝承活動を確実に保存継承しながら、さらに価値を高めていく取組を推進します。

## オ コミュニティの活性化と安全安心な地域づくりの推進

地域の担い手の育成や広域コミュニティの設置検討、集落の連携などの新たな仕組みづくりを支援します。健康維持の拠点づくりや地域公共交通の構築など、健康で安全、安心に暮らせる環境整備を進めます。

### (5) 朝日地域

#### ○地域の基本方針

朝日地域は豊かな森林資源に恵まれ、自然と調和した歴史と文化が育まれてきた地域です。

しかし、全国的にも有数の豪雪地帯であり、山間地という地理的条件上、平野部と比較すると厳しい住環境にあり、人口減少や少子高齢化の傾向が特に顕著となっています。

住民が住み慣れた地域で安全にいきいきと暮らしていけるよう、生活環境の整備や住民による生活基盤の維持、強化への支援など、地域の暮らしを守り支える取組を進めます。

また、これまでの農業基盤や生産技術に創意工夫を加えた農業施策や、森林資源を活用した振興方策により農地や山林の荒廃を食い止め、農林業の持続的な振興を図ります。

併せて、豊かな自然や山岳信仰など、多種多様な観光資源を組み合わせ、地域内の自然や伝統文化、食の魅力を存分に楽しめる環境を整備し、交流人口の拡大による観光振興を推進します。

#### ○施策の方向

中山間地域の暮らしを守り、支える取組を進めます

##### ア 中山間地域における定住環境の支援

地域住民が、住み慣れた地域でいきいきと暮らしていけるよう、地域内生活交通の確保や高齢者の克雪対策支援など、生活環境の整備・支援を行います。

また、住民主体による地域の実情に応じた集落対策を推進し、共通の課題を抱える集落間をつなぐなど広域的な視点から集落間の連携による生活基盤の維持・強化を進めるとともに、持続可能な地域運営組織の育成と活動拠点の整備を進めるほか、地域課題解決に向けた住民自らの取組を支援します。

併せて、豊かな森林資源と自然環境を活用した自然環境教育の実践や国際交流などにより、次世代を担う人材の育成を目指します。

- ①地域内生活交通の維持・確保を目指します
- ②快適で安心・安全な環境整備への支援を進めます
- ③地域を支える人材の育成を進めます

イ 森林資源、自然環境などを活用し、中山間地に特化した農林業の振興

これまでの農業基盤や生産技術に創意・工夫を加えた農業施策を推進し、農産物の流通体系の整備、地域特産品（農産物）の販売支援、特産品の開発、既存商品のブラッシュアップ、農地保全のための仕組みづくり等を通し、中山間地型複合経営を目指します。

また、広大な森林資源を活用するための菌茸類等の栽培品目の開発や栽培技術の向上、新規生産者の育成に努め、特用林産物の販売数量の確保と資源循環を目指します。

- ①中山間地における持続的な農業体系の整備を進めます
- ②森林資源の保全と有効な活用を進めます

ウ 自然、文化、風土など、地域資源を活用した観光の振興

通年型観光の拠点として湯殿山エリアを構成する多彩な観光資源を組み合わせ、誘客を図るとともに、地域にある自然や文化、食の魅力を存分に楽しめる環境づくりを通し、地域の活性化につながる観光振興を目指します。

- ①観光振興施設と観光者受入環境の整備を進めます
- ②地域の自然、文化、食の魅力の発信を進めます

(6) 温海地域

○地域の基本方針

温海地域は、あつみ温泉に代表される観光資源や食文化、伝統文化、自然など多様な地域資源を有し、27 集落がそれぞれの特性を生かした活動を展開してきました。地域資源を保存し継承するだけでなく、様々に組み合わせて活用することで新たな価値を生み出し、交流人口や関係人口の拡大につなげ、地域住民がいきいきと暮らすことができる地域づくりを進めます。

代表的な観光資源であるあつみ温泉については、温泉街の景観づくりや賑わいづくりを促進し、魅力ある温泉観光地を目指します。

日浴道の延伸を契機として、地域産業の活性化や鼠ヶ関地域への誘客とその周辺への経済効果を生み出せるような取組を進めます。

豊富な地域資源を生かした体験型観光を推進し、交流人口の拡大を図ります。また、多様な人材を地域づくりに生かす仕組みを構築します。

豊かな自然や歴史が培った農林水産資源や伝統産業を継承しつつ、温海地域独自のブランドを構築し、生産者の生きがいづくりや所得の向上を図ります。

自然環境や地理的に不利な条件下でも、住民がいきいきと暮らし続けられるよう、集落の自治機能の維持と生活環境の維持向上に向けた取組を進めます。

これらの取組について、地域の自主性・自発性を尊重し支援することとし、

市民・地域・行政の協調・協力により地域の総合力を発揮し持続可能な地域づくりにつなげていきます。

#### ○施策の方向

##### ア あつみ温泉の魅力の向上と賑わいの創出

あつみ温泉は、2021年に開湯1200年、2022年に庄内藩湯役所設置400年の節目の年を迎えます。温泉街の観光施設や景観、環境の整備により、「そぞろ歩き」を楽しめる環境づくりを進め、魅力ある店舗創出や誘客対策により温泉街の賑わいづくりを促進します。また、多様な主体が連携のもと、あつみ温泉の中長期的な戦略を検討し、日沿道全線開通後も通過点とならないような魅力ある温泉観光地を目指します。

##### イ 日沿道延伸を活かした鼠ヶ関周辺地域の活性化

計画されている道路休憩施設及び既存の道の駅を活用した産業の活性化や鼠ヶ関地域の魅力向上による誘客と、周辺への経済効果をもたらす取組を進めます。併せて、庄内浜産魚介類を活用し、漁業のまち鼠ヶ関の知名度向上を図ります。

##### ウ 自然・歴史・文化を活かした交流人口、関係人口の拡大

豊富な自然や産業、伝統文化を活用した体験型観光や教育旅行の受入れを推進し、外国人旅行者も含めた交流人口の拡大を図ります。また、地域を離れた人材や地域と多様な関わりや想いを持つ人材を地域づくりに活かす仕組みを構築します。

##### エ 農林水産資源のブランド化

豊かな自然や歴史を背景とした特色ある農林水産資源や焼畑などの伝統手法を守り継承しつつ、温海地域独自のブランドを構築し、生きがいつくりや所得の向上を図ります。また、貴重な地域資源である国指定の伝統的工芸品「羽越しな布」の保存、継承を支援するとともに、製品開発や未利用資源の活用など新たな取組にもチャレンジし地域振興を図ります。

##### オ 次代を見据えた自治会機能とコミュニティ機能の強化

地域内の集落が有している特色ある自治機能を大切にし、それぞれの集落が将来にわたって自治機能を維持できるように支援します。また、人口減少、高齢者世帯の増加を見据えた新たな情報伝達体制の構築を図るため、住民との対話を重ねながら、その調査研究に取り組めます。

#### カ 海・山・自然豊かに暮らし続けられる環境整備

温海地域の自然環境や地理的条件を踏まえ、地域住民が将来にわたって暮らし続けられるよう、道路ネットワークの強化など生活環境の維持向上を図ります。また、地域への愛着を育む取組を進め、多様な主体が連携し、高齢者が活躍する場の創出や住民同士が支えあう地域づくりを推進します。併せて、地域に有する遊休資産を活用し、地域活力の創造につなげる取組を進めます。

### 3 実施事業について

#### (1) 鶴岡地域

地域振興の基本方針の位置付け	未来を見すえた住民主体のまちづくりの推進 地域の明日を担う人材の確保・育成					
プロジェクト名	鶴岡地域まちづくり未来事業					
プロジェクトの目的	地域が有する人材、歴史・文化、産業、自然環境などの資源を活かしながら、住民自らが主体的に取り組むまちづくりを支援し、地域の活性化を図る					
プロジェクトの概要	<p>鶴岡地域の広域コミュニティ組織(21地区のコミュニティセンター単位)が計画したプロジェクトに位置づけた次の事業について、計画年次に従い、各地区より市に対し事業毎に事業提案を行い、庁内関係課からの意見を添えて、外部有識者を含む審査会において審査する。審査会において採択された事業について補助金を交付する。</p> <p>また、まちづくり未来事業に取り組む各地区の事例紹介などを通じ、地域のまちづくりを考える研修会を開催する。</p> <p>(1)自然、歴史、文化などの地域特性を活用し、まちづくりに取り組む事業 (2)安全、安心に暮らせる地域にするために取り組む事業 (3)地域の活性化や人材育成に取り組む事業 (4)その他市長が必要と認める事業(プロジェクト策定事業を含む)</p>					
期待できる効果	地域の特性を活かした地域振興やまちづくり活動の活性化が図られる					
実施スケジュール	具体的な事業項目		2019	2020	2021	2022以降
	(1)	鶴岡地域まちづくり未来事業	—————▶			
	2019(平成31)年度当初予算額(千円)		30,226			

(2) 藤島地域

地域振興の基本方針の位置付け	豊かな田園文化の継承と水田農業革命の実現					
プロジェクト名	藤島発！！鶴岡の米プロジェクト					
プロジェクトの目的	<p>藤島地域の経済基盤である水田を維持するとともに、消費者との関係強化を図り、作る人と食べる人が相互に支え合い、顔の見える農業を推進する。</p> <p>また、有機栽培を総合的にマネジメントできる有機農業エンジニアを育成し、品質及び所得の向上を図る。</p>					
プロジェクトの概要	<p>人と環境にやさしい農業の取組を継続し、安全・安心な農産物の拡大と産地ブランド化、地産地消の取組を進める。</p> <p>(1)作る人食べる人双方で支える地域農業                  (2)JAS 有機農業推進協議会農産物・特別栽培農産物の拡大</p>					
期待できる効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生産者と消費者と農業関係機関が三位一体となり、ローカルブランドを立ち上げるにより、地域農業が活性化し農家所得の向上が図られる。</li> <li>・統一したブランドイメージと認証制度を活用することにより生産品の均一化が図られるとともに、稲作農家のやる気の喚起と高品質米を生産する意識の醸成が図られる。</li> <li>・高齢化や農家の減少による大規模化に対応した低コスト化・省力化技術等を活用するとともに、技術を活用できる環境を整備することで農家所得の向上が図られる。</li> <li>・技術者の育成により個々の有機農業者のレベルが向上し労力の軽減と品質の向上が図られる。</li> </ul>					
実施スケジュール	具体的な事業項目		2019	2020	2021	2022以降
	(1)	人と環境にやさしい農業推進事業	—————▶			
	(2)	オーガニック・エコ農産物産地拡大事業	—————▶			
	2019(平成31)年度当初予算額(千円)		3,073			

地域振興の基本方針の位置付け	豊かな田園文化の継承と水田農業革命の実現					
プロジェクト名	藤島発！！園芸作物拡大プロジェクト					
プロジェクトの目的	<p>枝豆などの土地利用型作物を振興して水田における複合経営を推進し、稲作単作からの脱却を図るとともに地場農産物を原料とした加工特産品の開発を行う。</p> <p>さらには地域内の産直施設と連携し、生産者と消費者が互いに顔の見える環境を構築し、地場産農産物を中心とした賑わいの創出と地域の活性化を図る。</p>					
プロジェクトの概要	<p>稲作を基幹としながら園芸作物の生産拡大を図り農家所得の向上をめざす。</p> <p>(1)集出荷施設の整備と作業組織の育成 (2)農産物の加工推進 (3)産直等の活用</p>					
期待できる効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複合経営により農家所得の向上が図られる。</li> <li>・品質向上によりブランド化が図られる。</li> <li>・栽培技術向上により所得向上が図られる。</li> <li>・作業体系が確立されることで作付け面積の拡大が見込まれる。</li> <li>・本地域におけるすいおう栽培が活発となり産地として確立される。</li> <li>・すいおうの出荷が軌道に乗ることにより農家所得の向上に繋がる。</li> <li>・エコタウンセンターの来場者数の増加により賑わい創出と地域活性化が図られる。</li> <li>・地産地消率の向上が図られる。</li> </ul>					
実施スケジュール	具体的な事業項目		2019	2020	2021	2022以降
	(1)	園芸作物拡大支援事業(集出荷施設)		→		
	(2)	地域農産物加工推進事業	→			
	(3)	藤島エコタウンセンター管理事業	→			
		2019(平成31)年度当初予算額(千円)	15,020			



地域振興の基本方針の位置付け	豊かな田園文化の継承と水田農業革命の実現					
プロジェクト名	食農教育等を通じたふるさと意識の醸成					
プロジェクトの目的	「人と環境にやさしい農業」により生み出される農作物の重要性を、食農教育や農業体験学習を通して子ども達に伝え、子どもたちが農業の未来に関心を持ち、魅力を感じ、地域への誇りと愛着を育む。					
プロジェクトの概要	学校給食へ新鮮な地元農産物を供給する団体を支援し、地産地消率の向上を図る。 (1)地産地消の推進					
期待できる効果	・野菜の地産地消率の向上と農家の安定経営が図られる。					
実施スケジュール	具体的な事業項目		2019	2020	2021	2022以降
	(1)	地産地消推進事業	—————▶			
	2019(平成31)年度当初予算額(千円)		210			

地域振興の基本方針の位置付け	豊かな田園文化の継承と水田農業革命の実現					
プロジェクト名	庄内農業高等学校・首都圏大学と地域との連携推進					
プロジェクトの目的	<p>庄内農業高等学校と地域、関係団体などが連携し、将来、地域を担う人材育成を支援するとともに、同校卒業後の地元定着を図る。</p> <p>また、藤島地域と関わりのある首都圏大学との地域連携も継続し、首都圏での農産物PR等を足がかりに、首都圏交流の拡大と地域の賑わいを創出する。</p>					
プロジェクトの概要	<p>庄内農業高等学校と地域、農業関連団体などが連携して、魅力ある学校づくりを支援する。また、大東文化大学との連携により農産物のPRなどを行い、地域と首都圏の交流を推進する。</p> <p>(1) 庄内農業高等学校との地域連携の推進 (2) 首都圏大学との地域連携の推進</p>					
期待できる効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元に着し地域を担う人材育成に繋がる。</li> <li>・地域おこしに繋がる商品化研究や他校とのコラボ商品開発など、実業校ならではのユニークな取り組みが活発化する。</li> <li>・志望する学生増加に繋がる。</li> <li>・首都圏の学生が住民や農村との交流を行うことで地域の活発化が図られる。</li> <li>・来訪した首都圏の学生が SNS 等で情報を発信することで本地域の知名度が向上し観光人口や移住者数の増加が見込まれる。</li> </ul>					
実施スケジュール	具体的な事業項目		2019	2020	2021	2022以降
	(1)	庄内農業高等学校地域連携事業	→			
	(2)	首都圏大学・農業農村マッチング事業	→			
	2019(平成 31)年度当初予算額(千円)		1,520			

地域振興の基本方針の位置付け	歴史と文化、交流が彩るふじのまちづくり					
プロジェクト名	藤島歴史公園「Hisu 花」を活用した藤島地域の魅力発信					
プロジェクトの目的	<p>藤島歴史公園「Hisu 花」をテーマ性のある地域資源として捉え、ふじの魅力を体感、発信できる多様な活用を図りながら、多くの方が訪れる賑わいある公園づくりとそこから発展する地域づくりを推進する。</p> <p>また、公園内の東田川文化記念館においても地域の歴史と文化を発信するとともに、藤島歴史公園「Hisu 花」と連動した文化活動、農業や伝統芸能、わら文化など、地域の情報発信拠点として、相互の有効活用を図る。</p>					
プロジェクトの概要	<p>東田川文化記念館を含む藤島歴史公園「Hisu 花」から始まる地域づくりとして、市民が公園づくりや活用を検討できる場を創出し、誘客につながる公園の環境整備を推進する。</p> <p>また、オフシーズンのイルミネーションの点灯や住民参加の花壇整備などを行い魅力発信に努める。</p> <p>(1)ふじの花のライトアップとイルミネーション等による魅力発信  (2)藤島歴史公園「Hisu 花」から始まる地域づくり  (3)東田川文化記念館の魅力再発見と活用  (4)藤島歴史公園の利用、誘客につながる環境の整備</p>					
期待できる効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマ性のある観光資源として誘客が図られる。</li> <li>・マルシェやイベント開催など、公園の魅力創出と活用が促進される。</li> <li>・藤島歴史公園「Hisu 花」を拠点とした、多様な人々による活動が促進される。</li> <li>・公園の活用と、活動を通じた地域づくりに関わる人と、関わり方の構築が図られる。</li> <li>・他の地域資源活用など地域全体の活性化へと波及することが期待できる。</li> <li>・シビックプライドを醸成する新たな活動の展開が期待できる。</li> <li>・地域のシンボルとしての誇りにつながる。</li> <li>・施設を核とした藤島歴史公園の活用を図ることで、交流の拡大にもつながる。</li> <li>・各種イベントの人の動きの増加により、物産販売やサービスが伸長し、経済活動が活性化する。</li> <li>・公園機能の増進により誘客が図られるとともに食文化の醸成、農業振興なども見込まれる。</li> </ul>					
実施スケジュール	具体的な事業項目		2019	2020	2021	2022以降
	(1)	ふじの花のライトアップとイルミネーション等による魅力発信事業	→			
	(2)	藤島歴史公園「Hisu花」から始まる地域づくり事業	→			
	(3)	東田川文化記念館リノベーション事業	→			
	(4)	オープンカフェ用デッキ整備事業	→			

	(4) 子ども向け設備等設置事業	→		
	2019(平成 31)年度当初予算額(千円)	33,880		

地域振興の基本方針の位置付け	歴史と文化、交流が彩るふじのまちづくり				
プロジェクト名	住民協働による藤棚等の適正な維持管理の推進				
プロジェクトの目的	市民の主体性をまちづくりに生かし、公共施設の藤棚や歴史公園、町内会表示板などの適正な維持管理について、地域住民、ボランティア、各種団体、行政などが協働で取り組むパートナーシップの構築を図る。				
プロジェクトの概要	ふじのまちにふさわしい藤棚等の適正な維持管理を推進するため、地域住民、ボランティアなどの住民の主体性を生かした取組や活動を支援する。また、ふじのまちにふさわしい藤棚等の維持管理に努める。 (1)ふじの管理ボランティア団体等の育成支援 (2)ふじのまちにふさわしい藤棚等の維持管理の推進				
期待できる効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふじの普及や管理に携わるプロフェッショナルの育成が図られる。</li> <li>・ふじのまちづくりにふさわしい環境整備が図られる。</li> </ul>				
実施 スケジュール	具体的な事業項目	2019	2020	2021	2022 以降
	(1) ふじ管理エキスパート養成支援事業	→			
	(2) 藤棚の整備事業	→			
	(3) ふじの里づくり事業	→			
	2019(平成 31)年度当初予算額(千円)	4,635			

地域振興の基本方針の位置付け	歴史と文化、交流が彩るふじのまちづくり					
プロジェクト名	伝統芸能の育成と地域コミュニティづくり					
プロジェクトの目的	「伝統芸能」は、今後も重要なまちづくりの資源と捉え、地域に活力を生み、住民が誇りと愛着を持てる地域づくりにつなげていくとともに、地域内外にその魅力を発信し、交流人口の拡大と賑わい創出を図る。					
プロジェクトの概要	市内の伝統芸能の裾野を広げるイベントとして鶴岡伝統芸能祭を開催し、獅子の里「藤島」を発信する。また、伝統芸能の保存伝承にも取り組む。 (1)鶴岡伝統芸能祭の開催					
期待できる効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域外から大勢の誘客を図ることができ、地域活性化に繋げることが出来る。</li> <li>・大勢の観客の前で郷土芸能を披露する「場」を提供することで、出演者の誇りややりがいにつながる。</li> <li>・伝統芸能団体間の交流の機会をつくることできる。</li> </ul>					
実施スケジュール	具体的な事業項目		2019	2020	2021	2022以降
	(1)	鶴岡伝統芸能祭開催事業	—————▶			
	2019(平成31)年度当初予算額(千円)		760			

地域振興の基本方針の位置付け	歴史と文化、交流が彩るふじのまちづくり							
プロジェクト名	ふじの花による観光振興の促進							
プロジェクトの目的	ふじの花の魅力を地域内外に発信する一大イベントとして「ふじの花まつり」を開催するとともに、訪れた多くの方がふじに親しみ、楽しめるふじにちなんだお土産品やグッズ、キャラクター等の開発を行い、ふじをテーマとした観光振興を図る。							
プロジェクトの概要	ふじに親しみを持って訪れる観光客等が気軽に購入でき、楽しめるふじにちなんだお土産品やグッズ等の開発を行う。 (1)ふじにちなんだお土産品等の開発							
期待できる効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>-「ふじの花」による観光振興が図られる。</li> <li>-地域住民が誇りと愛着を持てる活力ある産業づくり、人づくりが促進される。</li> <li>-新たなビジネスモデルの構築が図られる。</li> </ul>							
実施スケジュール	具体的な事業項目				2019	2020	2021	2022以降
	(1)	お土産品開発事業			—————▶			
	2019(平成31)年度当初予算額(千円)				208			

地域振興の基本方針の位置付け	くらしやすい“藤島”を実感できる生活基盤の再構築					
プロジェクト名	自立分散型インフラ整備の推進					
プロジェクトの目的	依然として進む少子高齢化に伴う人口減少を見据え、地域内の生活基盤の再構築を図り、暮らしやすさを実感できる自立分散型のインフラを整備する。					
プロジェクトの概要	<p>地域公共交通のあり方や宅地供給の支援など地域のニーズを反映した仕組みづくりを検討し、魅力ある定住地としての環境づくりを図る。</p> <p>(1) 定住を支援する住環境等の整備 (2) 公共交通空白地域の解消</p>					
期待できる効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宅地分譲事業を市街化区域内に固定してきた弊害が解消できる</li> <li>・各小学校区への住宅供給を行うことで、人口減少対策となり、地域の自立を促せる</li> <li>・公共交通の調査事業を首都圏大学に依頼することで、住民との信頼関係が生まれ、高齢化が進む地域の活性化につながる</li> <li>・参加する学生は授業の一環として長期的に取り組みことになるので、地方の交通問題や少子高齢化問題を体験として捉えることができ、本市への関心が高まる</li> <li>・市として今後の地域公共交通の調査事業のあり方を検証する材料になり得る</li> </ul>					
実施スケジュール	具体的な事業項目		2019	2020	2021	2022以降
	(1)	定住支援住環境等整備事業	→			
	(2)	長沼・八栄島地区地域公共交通導入事業	→			
	2019(平成31)年度当初予算額(千円)		1,151			

地域振興の基本方針の位置付け	くらしやすい“藤島”を実感できる生活基盤の再構築					
プロジェクト名	健康でいきいきと暮らせるしくみづくり					
プロジェクトの目的	高齢者が社会参加しやすく、いきいきと充実した生活を送れるような仕組みを地域と協働で進めるとともに、高齢者等が生きがいを持って暮らし続けられるよう、社会参加の促進や買物弱者対策を進める。					
プロジェクトの概要	ふれあいセンター(商業施設部分)の新たな利活用策や運営手法の検討・構築と実践。 (1)藤島ふれあいセンターの利活用策の再構築					
期待できる効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣高齢者の買い物の利便性確保</li> <li>・より効果的な市有財産の利活用</li> <li>・藤島中心街の賑わいの創出</li> </ul>					
実施スケジュール		具体的な事業項目	2019	2020	2021	2022以降
	(1)	ふれあいセンター活性化事業	—————▶			
		2019(平成31)年度当初予算額(千円)	530			



(3) 羽黒地域

地域振興の基本方針の位置付け	人を惹きつけ魅力あふれる観光の推進				
プロジェクト名	出羽三山・修験の里再生による歴史文化の継承と発信				
プロジェクトの目的	歴史的景観の保全と歴史的背景を持つ地域活動の維持継承、伝統的建築や固有の食文化など有形無形の歴史的文化的資産の保全継承とともに、それらを活用して交流人口の拡大を図る。				
プロジェクトの概要	<p>手向門前町のまちなみ修景整備や、地域住民によるまちづくりビジョンの策定や地域活性化のための主体的な取組を支援するとともに、出羽三山の歴史文化にかかる伝統行事や信仰、生活の中で育まれた固有の食文化などの魅力を広く発信する。</p> <p>(1) 歴史文化の継承と発信  (2) 出羽三山と門前町の魅力を伝える環境づくり  (3) まちなみ景観保全修景整備と道路等修景整備  (4) 出羽三山精進料理の魅力発信</p>				
期待できる効果	手向門前町のイメージの向上と観光客集客による地域活性化 手向信仰文化の独自性や魅力、誇りのもてる地域であることの再認識 地域資源を活用した取組の促進				
実施スケジュール	具体的な事業項目	2019	2020	2021	2022以降
	(1) 門前町歴史まちづくり推進事業	→			
	(2) いでは文化記念館環境整備事業	→			
	(3) 蝦夷館公園再整備事業	→			
	(4) 羽黒山随神門前公衆トイレ整備事業	→			
	(5) 羽黒山石段マラソン全国大会支援事業	→			
	(6) 観光地花いっぱい事業	→			
	(7) 門前町手向花いっぱい事業	→			
	(8) フリーWi-Fi整備事業	→			
	(9) 出羽三山の精進料理魅力発信事業	→			
2019(平成31)年度当初予算額(千円)					35,965

地域振興の基本方針の位置付け	人を惹きつけ魅力あふれる観光の推進					
プロジェクト名	松ヶ岡開墾場の歴史的環境の保存・活用による地域活性化					
プロジェクトの目的	松ヶ岡開墾場の歴史的価値や景観等を保存するとともに、開墾場や地域の魅力を発信し、地域活性化に繋げる。					
プロジェクトの概要	「松ヶ岡地域振興ビジョン」に基づく地域の魅力を向上させるための取組を支援する。 (1)松ヶ岡開墾場を活用した地域活動への支援					
期待できる効果	地域イメージの向上と観光客集客による地域活性化					
実施スケジュール	具体的な事業項目		2019	2020	2021	2022以降
	(1)	松ヶ岡地域振興ビジョン推進支援事業	—————▶			
	2019(平成31)年度当初予算額(千円)		800			

地域振興の基本方針の位置付け	人を惹きつけ魅力あふれる観光の推進					
プロジェクト名	映画ロケ支援等観光連携による周遊・滞在型観光誘客の強化					
プロジェクトの目的	映画を活用した誘客の推進を図るとともに、出羽三山や映画ロケ地を訪れる観光客を羽黒地域全体で取り込み、交流人口の拡大を図る。					
プロジェクトの概要	<p>民間企業による映画ロケ誘致や映画を活用した誘客事業に支援を行うとともに、観光施設の連携による観光情報の発信や観光周遊ルートの設定などにより、羽黒山等の観光客を他の観光施設等にも誘客する。</p> <p>(1)映画ロケ誘致等への支援 (2)既存観光施設間の連携による周遊・滞在型観光の推進</p>					
期待できる効果	映画撮影等による宿泊、飲食、関連業務などの経済効果 シーズン営業や小規模で立ち寄りが少ない観光地・施設等における誘客の拡大					
実施スケジュール		具体的な事業項目	2019	2020	2021	2022以降
	(1)	映画ロケ等支援事業補助金	→			
	(2)	月山高原エリア活性化事業	→			
	(3)	観光情報発信事業	→			
	(4)	羽黒山スキー場活性化事業	→			
	(5)	観光施設ツアーバス運行事業	→			
	(6)	観光案内看板設置事業	→			
	(7)	観光地大規模イベントへの出店補助事業	→			
	2019(平成31)年度当初予算額(千円)		13,550			

地域振興の基本方針の位置付け	地域の特色を生かし価値を高める農業の推進							
プロジェクト名	月山高原エリアの交流人口の拡大による地域活性化と農業振興							
プロジェクトの目的	羽黒山や月山、庄内オープンセットの間にある月山高原の地理性を活かし、公共施設である月山高原ハーモニーパークを中心に中山間地農業と観光を結び付け、地域活性化と農業振興を図る。							
プロジェクトの概要	<p>近隣のひまわり畑は夏季の観光スポットになっている一方、月山ハーモニーパークの老朽化により施設が活かされず、交流の拠点となっていない状況であることから、相乗効果が生まれるように施設内の遊具やふれあいハウスなどの施設を再整備し、人が集まり利用しやすい環境を整える。</p> <p>(1)月山高原ハーモニーパークの再整備と活用</p>							
期待できる効果	ひまわり畑との相乗効果による月山高原エリアへの集客と中山間農業の活性化 ふれあいハウスでの営業に伴う地元産農産物の販売拡大							
実施スケジュール	具体的な事業項目				2019	2020	2021	2022以降
	(1)	月山高原ハーモニーパーク整備事業	→					
	2019(平成31)年度当初予算額(千円)				319			

地域振興の基本方針の位置付け	地域の特色を生かし価値を高める農業の推進					
プロジェクト名	園芸作物の産地強化による振興					
プロジェクトの目的	羽黒地域の特産物である庄内柿やアスパラガスなどの園芸作物について、ブランド化や農業産出額の増加、産地としての維持拡大を図る。					
プロジェクトの概要	園芸作物について、新規・更新の植栽支援、耕畜連携した土づくり等を推進するとともに、販売促進のための取組に支援を行う。 (1)特色を生かした園芸作物の生産振興 (2)園芸作物等の販売促進への支援					
期待できる効果	地域の特産品であるアスパラガスの生産の維持拡大 園芸作物等の地域農産物の販売額増加					
実施スケジュール	具体的な事業項目		2019	2020	2021	2022以降
	(1)	産地化植栽支援事業	→			
	(2)	産直施設立ち上げ・機能強化支援補助事業	→			
	2019(平成31)年度当初予算額(千円)		765			

(4) 櫛引地域

地域振興の基本方針の位置付け	果樹産地の特色を生かしたフルーツの里づくり							
プロジェクト名	果樹産地の特色を生かしたフルーツの里づくりプロジェクト							
プロジェクトの目的	<p>「フルーツの里くしびき」の果樹をテーマとし樹園地の拡大、6次産業化、担い手育成等による持続可能な果樹生産の拡大と安定を図るソフト・ハード一体の施策展開を実施する。</p> <p>また、「産直めぐり」周辺地区をフルーツランド(仮称)として整備し、果樹をテーマとした学習の場、憩いの場、食の場の拠点として、南部広域観光交流人口の増加と地域活性化を図る。</p>							
プロジェクトの概要	<p>(1) 櫛引フルーツランド(仮称)整備          コマーシャル果樹園、カフェ等休憩施設、遊具、加工施設、多機能トイレ</p> <p>(2) フルーツの里ブランド化の推進          6次化商品開発及びブランド戦略、販売戦略構築、東京大学フィールドスタディ戦略プログラムとの連携、推進員の設置など</p> <p>(3) 担い手の育成          園地情報の整理と果樹農家経営意向調査、農地流動化による担い手への樹園地集積、コマーシャル果樹園を活用した栽培技術の継承</p>							
期待できる効果	<p>(1) 庄内随一の多品目生産の果樹産地として、生産者、観光果樹園、産直及びJA等の集出荷組織の連携を促進し、フルーツランドの整備に取り組むことで、果樹産地の強化とブランド化、産出額の増加と農業所得の増大が期待できる。</p> <p>(2) 国道112号沿いに地域の顔となる拠点を整備することで、交流人口の増加による地域活性化の効果が期待できる。</p>							
実施スケジュール	具体的な事業項目				2019	2020	2021	2022以降
	(1)	櫛引フルーツランド(仮称)プロジェクト事業						
	2019(平成31)年度当初予算額(千円)		4,745					

地域振興の基本方針の位置付け	農業自然体験に着目した都市農村交流の推進					
プロジェクト名	農業自然体験に着目した都市農村交流の推進プロジェクト					
プロジェクトの目的	<p>たらのきだいスキー場、ほのかたらのきだい(農林漁業体験施設)の機能を見直し、通年型自然体験施設として環境整備を図り、1年を通して利用者数の増加を図る。</p> <p>また、首都圏の修学旅行や農業体験受け入れ体制を強化し、宿泊できる交流ゲストハウスを開設することで交流人口を拡大させ、鶴岡ファンの獲得、地域農産物の販路拡大、地域農業者の収益力、経営意識の向上を図る。</p>					
プロジェクトの概要	<p>(1)NATURE LAND(自然体験学校)構想 Snow season(冬期間) ファミリースキー場を目指し、雪遊びのメニューを拡充、ソリ乗り場等の環境整備を実施し機能の拡充を図る。 Green season(春～秋期) スキー場とほのかたらのきだい(農林漁業体験施設)が連携し、自然体験学校施設等として利活用(期日限定:週末・夏季等)するため再整備する。</p> <p>(2)都市農村交流促進事業 JA青年部・黒川能の里の会へ支援、空き家ゲストハウス改修、農家カフェ整備、農業体験視察研修、体験メニューの開発</p>					
期待できる効果	<p>(1)たらのきだいスキー場の1年を通しての利用者数の増加 (2)交流人口の拡大・鶴岡ファンの獲得・地域農産物の販路拡大・地域農業者の収益力・経営意識の向上</p>					
実施スケジュール	具体的な事業項目		2019	2020	2021	2022以降
	(1)	NATURE LAND(自然体験学校)構想	→			
	(2)	都市農村交流促進事業	→			
	2019(平成31)年度当初予算額(千円)		6,469			

地域振興の基本方針の位置付け	地域を越えて連携する広域観光圏の形成				
プロジェクト名	地域を越えて連携する広域観光圏の形成プロジェクト				
プロジェクトの目的	<p>南部広域拠点(榎引・朝日・黄金)が連携する観光商品の開発や滞在型、着地型観光の情報発信と、地域デマンド交通と一体となった地域主体型の観光二次交通システムの構築を図り、羽黒山などからの観光客の周遊を促す広域観光圏の形成を推進することで、榎引・朝日・黄金地域の観光等施設の利用者増を図る。</p> <p>そのためには、地域内交通の利便性向上や観光振興に資する広域幹線道路について周辺地域と連携し、早期着工を関係機関に要望していく。</p>				
プロジェクトの概要	<p>(1)研究会の設立、観光商品の開発と提供、エーエージェントへの売り込み</p> <p>(2)地域主体の2次交通システム(空港・鶴岡駅～市南部観光拠点間の送迎)の開発 ※榎引地域デマンドバス導入事業との連携</p> <p>(3)羽黒～榎引～朝日を繋ぐ「広域観光幹線道路」の整備促進(県要望)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県道たらのき代鶴岡線(外内島～我老林バイパス)の延伸整備促進</li> <li>・県営農免農道整備事業(黒川2期地区)の整備促進</li> </ul> <p>※同事業市負担金は別途農山村予算を予定</p>				
期待できる効果	榎引・朝日・黄金地域の観光等施設の利用者増				
実施スケジュール	具体的な事業項目				
	(1)	南部地域広域観光拠点と交通基盤整備			→
	2019(平成31)年度当初予算額(千円)		0		



地域振興の基本方針の位置付け	黒川能など貴重な歴史文化の継承と活用					
プロジェクト名	貴重な歴史文化の継承と活用プロジェクト					
プロジェクトの目的	黒川能・丸岡城跡・綴れ織りなどの貴重な歴史文化を保存伝承していくため、地域全体でその価値を共有し、時代の変化に合った伝承の方策を探りながら新たな地域活動へつなげていく。また、歴史文化の資源や遺産を活用し慣れ親しむ場を積極的に提供することで、保存伝承活動への理解促進と地域の活性化を図る。					
プロジェクトの概要	(1) 伝統芸能アーカイブ事業 音源・映像のデジタル化、ライブラリー化 (2) 黒川能保存伝承支援事業【継続】 後継者育成、体験用装束の整備、保存会運営支援等 (3) 能楽青年交流事業【継続】 大学等能楽サークルの合宿招致、地元との交流、農業体験 (4) 丸岡城跡環境整備事業 大型バス等に対応した駐車場の整備 (5) 櫛引綴れ織りブランド化事業 トレンド調査・商品開発・虚籟庵の改修・職人の育成					
期待できる効果	(1) 黒川能や丸岡城跡等への関心・理解の深まり、人的交流の広がり、伝承気運の高まり、地域の活性化、地元への愛着・誇りの醸成、保存・管理団体等の安定的運営 (2) 櫛引綴れ織りの伝承・商品開発、ブランド化による新たな顧客の誘致と地域の活性化					
実施スケジュール		具体的な事業項目	2019	2020	2021	2022以降
	(1)	伝統芸能アーカイブ事業	→			
	(2)	黒川能保存伝承支援事業	→			
	(3)	能楽青年交流事業	→			
	(4)	丸岡城跡環境整備事業	→			
	(5)	櫛引綴れ織りブランド化事業	→			
		2019(平成31)年度当初予算額(千円)		5,758		

地域振興の基本方針の位置付け	コミュニティの活性化と安全安心な地域づくりの推進					
プロジェクト名	協働のまちづくりと地域の賑わい創出プロジェクト					
プロジェクトの目的	将来の地域づくりのリーダーを育成する取組や住民によるイベントや活動等を支援し、協働のまちづくりと地域のにぎわい創出に取り組む。					
プロジェクトの概要	<p>(1)くしびき若者未来創造事業 ワークショップや視察、グループ討議やまちづくりへの提言、実践を通し、地域のまちづくりを牽引していけるような人材の育成を推進する。</p> <p>(2)花いっぱい運動で環境美化推進事業 「花いっぱい運動」を、地域の特色あるまちづくりとしてさらに推進を図り、幅広い年代が参加するコミュニティ活動として位置づけながら、やすらぎと住みやすさを実感できる環境づくりを目指す。</p> <p>(3)くしびき夏のイベント推進事業 榊引地域における夏のイベントとして黒川能野外能楽「水焰の能」、農商工観が連携した「くしびき夏まつり」などを開催し、地域の特性を生かしながら、地域の魅力を高めるとともに、交流人口の拡大による人・もの・情報の交流をなお一層推進し、地域の活性化と一体感の醸成を図る。 ※水焰の能の直接開催費は別途予算</p>					
期待できる効果	<p>(1)事業をとおして将来のまちづくりを担う人材の育成や、それぞれの組織が横断的に交流することにより、計画されたまちづくり事業への参画など地域貢献に資する融合グループの組織化を期待</p> <p>(2)多世代の交流によるコミュニティの再構築。環境美化の推進によるやすらぎのある住みやすいまちづくり</p> <p>(3)地域の活性化と一体感の醸成</p>					
実施スケジュール	具体的な事業項目		2019	2020	2021	2022以降
	(1)	くしびき若者未来創造事業	→			
	(2)	花いっぱい運動で環境美化推進事業	→			
	(3)	くしびき夏のイベント推進事業	→			
		2019(平成 31)年度当初予算額(千円)		1,365		

地域振興の基本方針の位置付け	コミュニティの活性化と安全安心な地域づくりの推進				
プロジェクト名	デマンド交通・外出支援の推進プロジェクト				
プロジェクトの目的	<p>櫛引地域で現在導入しているスクールバスへの住民混乗利用も減少していることから、これに代わる住民ニーズに沿った新たな地域公共交通システムの整備を図る。</p> <p>羽黒山～湯殿山の中継地点にある櫛引地域の果樹や歴史・伝統文化などの観光資源と、金峰山や即身仏等を資源として有する黄金地区、朝日地域との広域観光圏の形成を図るために二次交通システムを開発する。</p>				
プロジェクトの概要	<p>(1) 地域内の公共交通に関し潜在需要の掘起しと利用者ニーズを把握するとともに、新たな地域公共交通システムの具体的手法を検討し、導入につなげる。</p> <p>(2) 郊外型のデマンドバス運行と観光二次交通システムを試験的に取り組み、本格稼働につなげていく。</p> <p>※南部地域広域観光拠点と交通基盤整備との連携</p>				
期待できる効果	<p>(1) 地域内の公共交通空白地帯が解消され、住民の利用しやすい交通環境が整う。</p> <p>(2) 櫛引地域内観光客の増加</p>				
実施スケジュール	具体的な事業項目	2019	2020	2021	2022以降
	(1) 櫛引地域デマンドバス導入事業	—————▶			
	2019(平成31)年度当初予算額(千円)	1,665			

地域振興の基本方針の位置付け	コミュニティの活性化と安全安心な地域づくりの推進					
プロジェクト名	健康で安全・安心なまちづくりの推進プロジェクト					
プロジェクトの目的	住民だれもが安全・安心に暮らせるよう、交通安全の推進や子育て支援、健康寿命の延伸を図るための取り組みを推進する。					
プロジェクトの概要	<p>(1) 榊引地域交通安全の日啓発事業 榊引地域に根付いている毎月1日の交通安全の日啓発事業を今後も継続するため、交通安全旗を更新し、榊引地域の交通安全運動の推進につなげる。</p> <p>(2) 「地域の遊び場」整備事業(検討事業) 子育て世代や多方面より要望が多い、大型遊具のある遊び場の整備について、他未来事業とも調整しながら実現に向けての検討を重ねる。 ※今後検討のため今期計画には事業費を計上していない。</p> <p>(3) いきいき健康活動拠点運営事業 高齢者の健康維持と生きがいづくりにつながる活動の実施と活動拠点の運営について、地域に委託し実施していく。</p>					
期待できる効果	<p>(1) 地域内での交通事故の減少、地域住民の交通安全意識の高まりにより、安全・安心なまちづくりに寄与する。</p> <p>(2) 子育て世代の満足度が上がり、住みよい環境を向上させることができる。 榊引地域内の施設と組み合わせた利活用など、相乗した効果が得られる。 子育て環境だけではなく、親や祖父母と世代間交流によるコミュニティの醸成が図られる。親子向けのイベントの開催などを企画し地域活性化につなげる。</p> <p>(3) 地区をあげて高齢者の活動の拠点を整備することにより、様々な取り組みを展開することが可能となり、高齢者の健康維持と併せて、介護予防や閉じこもり予防など多くの効果が期待できる。</p>					
実施スケジュール		具体的な事業項目	2019	2020	2021	2022以降
	(1)	榊引地域交通安全の日啓発事業	→			
	(2)	地域の遊び場整備事業(検討事業)			→	→
	(3)	いきいき健康活動拠点運営事業		→	→	→
	2019(平成31)年度当初予算額(千円)		1,145			

地域振興の基本方針の位置付け	コミュニティの活性化と安全安心な地域づくりの推進					
プロジェクト名	地域資源を活かした地域づくりの推進プロジェクト					
プロジェクトの目的	地域資源を効果的に活用し、魅力と賑わいある地域づくりを推進する。					
プロジェクトの概要	<p>(1) やすらぎの赤川河畔エリア活性化事業 「かわまちづくり」支援制度を活用し、赤川かわまちづくり計画に基づき、黒川橋下流の両岸を中心に下記内容を整備する。 1)遊具整備 2)レンタサイクルポート整備 3)案内看板設置 4)やすらぎ公園・馬渡川沿いの桜並木のテングス病駆除・大枝剪定・雪洞の設置 ※別途かわまちづくり予算による整備も予定</p> <p>(2)「空にかける階段」information booth 整備事業 富樫実氏(名誉市民)の「空にかける階段」作品を紹介するブースを整備し、ここを拠点に市内各所に点在する氏の作品を観て回遊できる仕組みをつくり、多くの来訪を誘引し地域活性化に繋げる。</p> <p>(3)希少淡水魚保存事業 絶滅危惧種である希少淡水魚(イバラトミヨ)の種の保存発動を地元組織と継続していくとともに、庁舎での展示などを通じ、生態系保全や自然環境保護の意識高揚、地域コミュニティの醸成を図る。</p> <p>(4)榊引地域の情報発信事業(榊引 PR 事業) SNS・YouTubeを活用し、榊引の観光情報や日常風景を発信し、観光客の増や郷土愛の醸成に繋げる。</p>					
期待できる効果	<p>(1) 交流人口を増やし賑わいを創出し、地域住民の誇りと元気を醸成する。</p> <p>(2) 多くの来訪を誘引することで、地域活性化に繋げる。また、郷土出身の芸術家の偉業を広く周知し、学習事業を実施することで、地元児童、生徒の芸術的感性を高め情操教育の向上が図られる。</p> <p>(3) 地域資源である希少淡水魚を後世に残し、生態系の保全が図られる。イバラトミヨを守る会など地域ぐるみの活動により、地域コミュニティの醸成が図られる。</p> <p>(4) 観光客の増や郷土愛の醸成に繋がる。</p>					
実施スケジュール		具体的な事業項目	2019	2020	2021	2022以降
	(1)	やすらぎの赤川河畔エリア活性化事業		→		
	(2)	「空にかける階段」information booth 整備事業	→			
	(3)	希少淡水魚保存事業	→			
	(4)	榊引地域の情報発信事業(榊引 PR 事業)	→			
	2019(平成 31)年度当初予算額(千円)		767			

(5) 朝日地域

地域振興の基本方針の位置付け	中山間地域における定住環境の支援				
プロジェクト名	地域内生活交通の維持・確保				
プロジェクトの目的	学校、病院等の生活利便施設への交通を確保するため、地域の実情や需要に応じた、利用者の視点に立ったきめ細やかな地域内交通対策を推進する。				
プロジェクトの概要	(1) 高校通学時のバス定期購入費用に自己負担上限を設け、差額を市が補助することで、保護者の経済的負担を軽減する支援を行う。 (2) 自宅から公共施設等への移動支援サービス試験を実施する。				
期待できる効果	(1) 通学時に公共交通機関の利用が促進され、高校生保護者世帯の経済的・送迎に伴う時間的な負担の軽減が期待できる。 (2) 今後の地域公共交通のあり方を検討する基礎資料にするとともに、高齢者への外出支援により健康増進や生きがいづくりの創出が期待できる。				
実施スケジュール	具体的な事業項目	2019	2020	2021	2022以降
	(1) 高等学校等生徒通学費支援事業	—————▶			
	(2) 地域内運送サービス試験運行事業	—————▶			制度検討
	2019(平成31)年度当初予算額(千円)	4,047			

地域振興の基本方針の位置付け	中山間地域における定住環境の支援					
プロジェクト名	快適で安心・安全な環境整備への支援					
プロジェクトの目的	<p>雪による経済的及び精神的負担を軽減するため、除雪支援や克雪対策の取組を進め、定住環境の整備を推進する。</p> <p>また、高齢者の自立促進と健康寿命の延伸のため、近隣住民の協力や支え合いの仕組みづくり、医療機関、関連福祉団体との連携や地域資源を活用した事業等を通して、高齢者支援体制の充実を図る。</p>					
プロジェクトの概要	<p>(1) 要支援者宅の玄関前除雪作業に対する支援を行う。</p> <p>(2) 温泉入浴施設管理運営への支援を行う。</p>					
期待できる効果	<p>(1) 除排雪の労力負担により転出を余儀なくされる要支援者世帯の負担を軽減し、定住化を促す効果が期待できる。</p> <p>(2) 温泉入浴施設の活用により、介護予防事業等への参加がなかった住民のきっかけづくりとなり、参加者の増加が期待できる。</p>					
実施スケジュール	具体的な事業項目		2019	2020	2021	2022以降
	(1)	助け合い玄関前除雪支援事業	→			
	(2)	介護予防・健康増進事業	→			
	2019(平成31)年度当初予算額(千円)		6,920			

地域振興の基本方針の位置付け	中山間地域における定住環境の支援					
プロジェクト名	地域を支える人材の育成					
プロジェクトの目的	豊かな森林資源と自然環境を活用し、次世代を担う子供達をはじめとした市民への自然環境教育の実践を進める。また、交流事業等を通じた関係人口の拡大と人材育成を推進する。併せて、地域情報の発信により、地域理解を深めてもらう取組を推進する。					
プロジェクトの概要	(1)タイ国「子どもの村学園」への中高生派遣事業を支援する。 (2)伝統行事、地域イベント等を紹介するカレンダーを制作する。 (3)大鳥自然の家の環境教育プログラムの開発や施設環境整備を行う。					
期待できる効果	(1)これまで民間レベルでの交流を展開してきた活動に支援を行うことで、継続した派遣事業として国際交流の人的ネットワークを広げ、地域を支える人材育成の効果が期待できる。 (2)行政情報や地域行事、地域の多様な資源や魅力等を地域住民に周知することで、各種の行事や活動への理解を深め、コミュニティ活動のきっかけになることが期待できる。 (3)自然環境教育を通じた地域の自然や文化を再認識する機会とし、次世代を担う青少年の健全育成が期待できる。					
実施スケジュール	具体的な事業項目					
	(1)	「子どもの村学園」国際交流派遣事業	2019	2020	2021	2022以降
	(2)	地域情報広報事業				
	(3)	大鳥自然の家環境整備事業				
	2019(平成31)年度当初予算額(千円)				6,547	



地域振興の基本方針の位置付け	森林資源、自然環境などを活用し、中山間地に特化した農林業の振興				
プロジェクト名	中山間地における持続的な農業体系の整備				
プロジェクトの目的	農業者の生産意欲を喚起するため、月山ワイン、山菜、そば等、地域内農産品の生産振興や新たな特産品開発への支援、交流等による販路拡大のための取組を推進する。また、鳥獣被害防止対策の取組を推進する。				
プロジェクトの概要	(1) 伝統料理の再現・講習・提供等を通し、朝日地域の食文化を紹介する機会を提供する。 (2) 観光・研究・交通等の複合的拠点施設の整備を支援する。 (3) 山ぶどうの生産から販売まで総合的な支援を行う。 (4) 地域産そば粉の消費拡大を支援する。				
期待できる効果	(1) 郷土料理や催事料理の保存・継承を行うことで、地域内の若い世代をはじめ地域外の方から地域理解を深めてもらうきっかけづくりになることが期待できる。 (2) 産直施設機能に加え公共交通や観光案内の機能も集約した複合施設を整備することで、地域中心部の拠点化が推進され活性化が期待できる。 (3) 山ぶどうの生産振興により、生産者や加工関係者の所得向上が期待できる。 (4) そばの消費拡大により、生産者の所得向上が期待できる。				
実施スケジュール	具体的な事業項目	2019	2020	2021	2022以降
	(1) 伝統料理の継承事業				
	(2) (仮称)産業振興施設整備事業				
	(3) 山ぶどう産業自立化支援事業				
	(4) 朝日産そば振興支援事業				
2019(平成31)年度当初予算額(千円)					4,843

地域振興の基本方針の位置付け	森林資源、自然環境などを活用し、中山間地に特化した農林業の振興					
プロジェクト名	森林資源の保全と有効な活用					
プロジェクトの目的	用材林、薪炭等の活用を推進するとともに、菌茸等の特用林産物の栽培研究や技術研究等を進めることにより販売量の確保や生産者の育成を図り、山林の荒廃防止対策を推進する。					
プロジェクトの概要	(1)山菜・菌茸類の生産拡大を支援するため、栽培技術研修や種苗助成により生産者の拡大を図るとともに、集出荷や販売への支援を行う。 (2)森林整備の際に生じた木材等を特用林産品生産へと活用する取組みへの支援を行う。					
期待できる効果	(1)生産者の拡大や技術向上により、生産者の所得の向上が期待できる。 (2)菌茸類の生産拡大による生産者の所得向上とともに、森林資源の循環を促し、水源涵養などの公益的機能の拡大が期待できる。					
実施スケジュール	具体的な事業項目		2019	2020	2021	2022以降
	(1)	山の恵み産地化事業	→			
	(2)	森林荒廃防止支援事業	→			
	2019(平成31)年度当初予算額(千円)		2,400			

地域振興の基本方針の位置付け	自然、文化、風土など、地域資源を活用した観光の振興							
プロジェクト名	観光振興施設と観光者受入環境の整備							
プロジェクトの目的	湯殿山エリアへの通年型観光による誘客を図るため、インフォメーション機能の整備やガイド、インストラクター等の人材育成を支援する。							
プロジェクトの概要	<p>(1)通年型観光の拠点施設として、湯殿山エリアを構成する多彩な観光資源を組み合わせ、インフォメーション機能の整備やガイド、インストラクター等の人材育成を通し誘客を図るとともに、施設の更新整備を進める。</p> <p>(2)湯殿山スキー場やあさひ家族キャンプ村の今後の活用方針について検討するとともに、施設の更新整備を進める。</p>							
期待できる効果	<p>(1)道の駅としての公益性を維持しつつ、来訪客に魅力あるイベント等を企画することにより、交流人口の拡大が期待できる。</p> <p>(2)スキー・スノーボード、オートキャンプの魅力を発信し来訪客の増加を図ることで、交流人口の拡大や雇用の場の確保が期待できる。</p>							
実施スケジュール	具体的な事業項目				2019	2020	2021	2022以降
	(1)	道の駅「月山」整備事業			→			
	(2)	あさひ自然体験交流施設維持管理事業			→			
	2019(平成31)年度当初予算額(千円)					28,022		

地域振興の基本方針の位置付け	自然、文化、風土など、地域資源を活用した観光の振興					
プロジェクト名	地域の自然、文化、食の魅力の発信					
プロジェクトの目的	日本遺産の構成文化財である六十里越街道や大鳥池、以東岳等の自然、また歴史が生み出した生活様式、食文化等の情報発信を図り観光資源として活用し、交流人口の拡大を図る。					
プロジェクトの概要	(1)地域住民の生活交通とともに、登山・観光シーズン中の来訪者の交通手段を確保するための観光市営バスを運行する。 (2)デジタル簡易無線を活用し、登山客への情報提供を行う。 (3)トレッキングと食文化の連携を図るイベントへの支援を行う。 (4)大鳥池へのヒメマス放流に対する支援を行う。					
期待できる効果	(1)地域住民の利便性を高めるとともに、来訪客に対しては二次交通を確保することにより交流人口の拡大が期待できる。 (2)携帯電話不感地域である朝日連峰の登山情報を無線により共有することで、登山者の不安を解消し、安全の確保が期待できる。 (3)食と連携して六十里越街道の魅力を紹介することにより、観光の振興、特産品の消費や交流人口の拡大が期待できる。 (4)資源を確保することで大鳥池の魅力を高め、朝日連峰への誘客効果が期待できる。					
実施スケジュール		具体的な事業項目	2019	2020	2021	2022以降
	(1)	観光市営バス運行事業	→			
	(2)	タキタロウネット活用事業	→			
	(3)	食と六十里越街道トレッキング連携事業	→			
	(4)	大鳥地域淡水活性化事業	→			
	2019(平成31)年度当初予算額(千円)		4,120			

(6) 温海地域

地域振興の基本方針の位置付け	あつみ温泉の魅力の向上と賑わいの創出					
プロジェクト名	あつみ温泉街の景観整備					
プロジェクトの目的	あつみ温泉の魅力の一つである「景観」のクオリティーの向上により、官民共通目標である「そぞろ歩きの楽しい温泉街」の到達度を高める。					
プロジェクトの概要	開園から50年以上経過し老朽化が進んだ温海公園(あつみ温泉ばら園)を改修し、あつみ温泉の観光の拠点、市民の憩いの場としてリニューアルを進める。また、桜並木の植替えや「かじか通り」等の劣化した休憩施設、照明設備、さらには朝市広場を観光客や地域住民の滞留拠点とするため、新たな足湯の整備や施設改修を行い、あつみ温泉街の景観整備を進める。					
期待できる効果	景観整備により来訪動機が高まり、観光入込客の増加が期待できるとともに、地元商店街への経済効果が期待できる。					
実施スケジュール		具体的な事業項目	2019	2020	2021	2022以降
	(1)	あつみ温泉ばら園整備事業 ばら園のリニューアル	→			
	(2)	温泉街景観づくり事業 桜並木の更新、街路灯のLED化支援	→			
	(3)	朝市広場環境整備事業 店舗ブースの改修、足湯等の整備支援	→			
			2019(平成31)年度当初予算額(千円)	17,900		

地域振興の基本方針の位置付け	あつみ温泉の魅力の向上と賑わいの創出					
プロジェクト名	あつみ温泉街の賑わいづくり					
プロジェクトの目的	魅力ある店舗の創出や魅力ある集客イベントの開催により、あつみ温泉の集客力や知名度の向上を図る。					
プロジェクトの概要	<p>民間主導の集客効果の高いイベント開催を支援する。尚、2021年と2022年は、あつみ温泉「開湯1200年」「庄内藩の湯役所設置400年」の節目の年になることから、地域の旅館・商店など関係者と協議しながら、地域が一体となったインパクトのあるイベントを開催し更なる誘客に努める。</p> <p>また、朝市広場を活用した日中の賑わいづくりや地元商店の自発的な取り組み並びに新規出店者への支援により、温泉街の賑わいを創出する。併せて、温泉街の魅力向上のため、ばら等の植栽を施し、そぞろ歩きの楽しい温泉街の整備に努める。</p>					
期待できる効果	<p>温泉街を周遊する観光客の増加と旅館や飲食店等への経済的波及効果に加え、地域住民のまちづくり参加意識と連帯感の醸成が期待できる。</p> <p>また、「食」に関する取組については、ユネスコ食文化創造都市としての住民意識の向上や質の高い食文化の認知度向上が期待できる。</p>					
実施スケジュール		具体的な事業項目	2019	2020	2021	2022以降
	(1)	あつみ温泉集客イベント実施事業 せせらぎの能、記念イベント開催支援	→			
	(2)	あつみフードPR事業 食を活かしたイベント開催支援	→			
	(3)	魅力ある店舗づくり事業 温泉街の空き店舗活用促進	→			
	(4)	温泉街フラワー整備事業 温泉街の花等の植栽活動支援	→			
		2019(平成31)年度当初予算額(千円)		1,950		

地域振興の基本方針の位置付け	あつみ温泉の魅力の向上と賑わいの創出					
プロジェクト名	魅力ある温泉観光地に向けた中長期戦略の検討					
プロジェクトの目的	あつみ温泉のあるべき将来像、目指す方向性を戦略的に展望し、魅力ある温泉観光地を目指す。					
プロジェクトの概要	<p>あつみ観光協会や温海温泉旅館組合、地域住民、行政が連携し、あつみ温泉の中長期的な戦略策定を目指す。策定にあたっては、住民ワークショップやまちづくりアドバイザーの活用を図るとともに「新・湯治」も視野に入れ、官民共通認識のもと進める。</p> <p>※「新・湯治」=平成29年7月に「自然等の地域資源を活かした温泉地の活性化に関する有識者会議」により提言された、現代のライフスタイルにあった温泉地の過ごし方の提案。</p>					
期待できる効果	<p>あつみ温泉の戦略を策定し将来計画を明確にすることで、観光客のニーズに的確に対応でき、観光入込客数の増加に繋がることが期待できる。</p> <p>また、「新・湯治」の活用は新たな温泉の利活用が期待できる。</p>					
実施スケジュール	具体的な事業項目		2019	2020	2021	2022以降
	(1)	あつみ温泉観光戦略策定事業 あつみ温泉の中長期観光戦略策定に向けた官民連携の取組	→			
	2019(平成31)年度当初予算額(千円)		500			


地域振興の基本方針の位置付け	日沿道延伸を活かした鼠ヶ関周辺地域の活性化							
プロジェクト名	新「道の駅」を活用した地域振興							
プロジェクトの目的	日沿道の延伸により鼠ヶ関IC(仮称)周辺に建設が計画されている道路休憩施設(新「道の駅」)をフル活用した地域振興を目指す。							
プロジェクトの概要	新「道の駅」の経営に参画することも視野に入れ、マーケティング能力や経営の実践能力、管理運営能力を有する人材を育成する。							
期待できる効果	新「道の駅」のスムーズな運営や発展に加え、地域産物の販売促進による地域経済の活性化が期待できる。							
実施スケジュール	具体的な事業項目				2019	2020	2021	2022以降
	(1)	新「道の駅」運営関連育成事業 マーケティング能力や経営の実践能力、管理運営能力を有する人材育成			—————▶			
	2019(平成 31)年度当初予算額(千円)				0			

地域振興の基本方針の位置付け	日沿道延伸を活かした鼠ヶ関周辺地域の活性化							
プロジェクト名	既存「道の駅」の有効活用に向けた検討と施設整備							
プロジェクトの目的	日沿道の延伸後において、新「道の駅」を拠点とし、既存「道の駅」も含めた鼠ヶ関周辺地域の観光まちづくりを進める。							
プロジェクトの概要	日沿道延伸後に国道7号の交通量減少が予想されることから、既存「道の駅」のあり方や有効活用策を検討し、必要に応じて施設の整備を支援する。							
期待できる効果	温海地域の新たな観光目的地としての機能が期待できるとともに、施設を拠点に広域的な周遊観光が可能になる。							
実施スケジュール	具体的な事業項目				2019	2020	2021	2022以降
	(1)	道の駅「あつみ」しゃりん整備事業 日沿道延伸後の施設運営のあり方検討と施設整備			—————▶			
	2019(平成 31)年度当初予算額(千円)				0			



地域振興の基本方針の位置付け	日沿道延伸を活かした鼠ヶ関周辺地域の活性化					
プロジェクト名	鼠ヶ関地内の賑わいづくり					
プロジェクトの目的	みなとオアシスの構成施設となっている弁天島周辺エリアの環境整備により、鼠ヶ関に「人」を誘導する仕組みづくりや観光地としての魅力づくりを進める。					
プロジェクトの概要	<p>専門家、有識者を招聘したワークショップ等を開催し、浜茶屋周辺施設(公衆トイレ等)の再整備や恋する灯台の活用等を検討し、まちづくりの方向性を共有します。そのうえで必要な施設整備を進める。</p> <p>※恋する灯台＝埋もれていた「灯台」の文化や歴史的価値を可視化し、各地域の強力な観光資源とするために、灯台を『恋する灯台』という恋愛の聖地として認定し再価値化するプロジェクト。鼠ヶ関灯台が認定を受けた。</p>					
期待できる効果	観光入込客数の増加により、賑わい創出と地域経済の活性化が期待できる。また、ワークショップ等の開催は、地域住民の一体感の醸成につながることを期待できる。					
実施スケジュール	具体的な事業項目		2019	2020	2021	2022以降
	(1)	はなさき路の賑わいづくり事業 弁天島周辺エリアの魅力向上に向けた取組	→			
	2019(平成31)年度当初予算額(千円)		200			

地域振興の基本方針の位置付け	自然・歴史・文化を活かした交流人口、関係人口の拡大					
プロジェクト名	交流人口の拡大による地域活性化					
プロジェクトの目的	地域内の宿泊施設や商店等の販売額増加による地域経済の活性化に加え、地域の伝統文化の保存継承や事業推進を通じた人材育成を図る。					
プロジェクトの概要	<p>体験型旅行の受け入れ拡大や交流人口の拡大を目指す団体を引き続き支援するとともに、民泊(農泊)については、農家等の意向も考慮しながら受け入れ環境の整備を進める。</p> <p>また、関川地区活性化計画の目標達成に向けて、しな織関係の売上増や交流人口の拡大を図るための取組を支援する。</p> <p>※関川地区活性化計画＝農山漁村振興交付金を活用した山村活性化を図るため、関川地区に地域資源活用施設を設置するにあたり、平成28年4月1日付けで「関川地区活性化計画」を策定した。内容は、関川地区の「しな織」を活用し、交流人口の拡大とともに地域産物(しな織関係)の販売額増加に取り組み、地域活性化を図るもの。</p>					
期待できる効果	地域団体毎に行ってきた体験型事業をネットワーク化することにより、地域全体を網羅した魅力的な着地型ツーリズムが構築され、旅行者の滞在時間の増加、消費行動の活発化による経済効果が期待できる。					
実施スケジュール	具体的な事業項目		2019	2020	2021	2022以降
	(1)	あつみ体験旅行推進事業 教育旅行受入をはじめとする体験型観光の推進	→			
	(2)	関川地区活性化計画推進事業 交流人口の拡大としな織関連の地域産物販売額の増加	→			
	2019(平成31)年度当初予算額(千円)		2,977			

地域振興の基本方針の位置付け	自然・歴史・文化を活かした交流人口、関係人口の拡大				
プロジェクト名	関係人口拡大の仕組みづくり				
プロジェクトの目的	新たな「地域づくりの担い手」となる人材を温海地域に迎え入れることで、人口減少が背景となって発生する諸課題の解決、地域の総合的な活性化を図る。				
プロジェクトの概要	<p>地域を離れた人材や地域と多様な関わりや想いを持つ人材を関係人口として、関係人口の受け入れや活躍できる仕組みを構築する。</p> <p>手順としては、先進地視察やセミナー開催による地域住民の意識の醸成を皮切りに、ふるさと支援や情報交換を活発にする「プラットフォーム」の立ち上げとそれを運営する中間支援団体の育成を進める。</p>				
期待できる効果	各自治会が関係人口を「地域づくりの担い手」として受け入れ、交流を進めることにより、地域の伝統文化や産業、安全安心な生活等の維持に加え、空き家活用なども含めた地域の総合的な活性化が期待される。				
実施スケジュール	具体的な事業項目				
		2019	2020	2021	2022以降
	(1)	温海地域支援ネットワーク推進事業 関係人口受け入れを促進するプラットフォームの構築 			
2019(平成 31)年度当初予算額(千円)					377

地域振興の基本方針の位置付け	農林水産資源のブランド化					
プロジェクト名	地域の食文化継承による地域振興					
プロジェクトの目的	古くから栽培されている在来作物等の継承や認知度向上により、生産者の所得向上と地域経済の活性化を図る。					
プロジェクトの概要	当面は、焼畑あつみかぶと越沢三角そばの振興を目標とし、焼畑あつみかぶについては、2019年中のGI登録を目標にブランド力向上を支援し、越沢三角そばについては生産規模拡大を支援する。					
期待できる効果	トップブランドの地域特産品としての知名度に加え、地域の認知度向上が図られるとともに、在来作物等の保存継承、生産者の所得向上による地域経済の活性化が期待できる。					
実施スケジュール	具体的な事業項目		2019	2020	2021	2022以降
	(1)	温海地域在来作物振興事業 食文化継承とブランド力向上を目指す取組支援	→			
	2019(平成31)年度当初予算額(千円)		1,350			

地域振興の基本方針の位置付け	農林水産資源のブランド化					
プロジェクト名	高齢農業者の生きがいづくり					
プロジェクトの目的	少量多品目でも流通できる仕組みづくりや鳥獣による農作物被害を軽減する取組により、高齢農業者も生きがいを持って農業を続けられる環境整備を図る。					
プロジェクトの概要	道の駅「あつみ」しゃりんの集荷システム強化や産直カー配備に対し支援するとともに、産直組織の一本化を視野に入れた検討を行う。また、鳥獣忌避作物の被害防止効果調査を実施するとともに、苗購入に対し支援する。					
期待できる効果	新「道の駅」における地域産物の販売体制や学校給食への安定供給体制が確立され、生産者の生産意欲の向上や所得の向上による地域経済の活性化が期待できる。					
実施スケジュール		具体的な事業項目	2019	2020	2021	2022以降
	(1)	温海地域小ロット農産物集荷システム整備事業 地域内農産物の集荷システムの構築	→			
	(2)	生産組織活動基盤強化事業 産直組織一本化と機能強化	→			
	(3)	鳥獣被害防止対策モデル事業 鳥獣忌避作物の被害防止効果調査と栽培支援	→			
		2019(平成31)年度当初予算額(千円)		1,645		

地域振興の基本方針の位置付け	農林水産資源のブランド化					
プロジェクト名	地域資源を活用した農山村集落の活性化					
プロジェクトの目的	地域資源の発展的コラボレーションや未利用資源の活用により、地域に新たな価値を創造し地域経済の活性化を図る。					
プロジェクトの概要	しな織と鶴岡シルクのコラボレーションによる新製品の研究開発を進める。また、しなの木の花等を活用した新商品のPRや、新たな製品の研究開発を産官学連携により進める。					
期待できる効果	地域経済の活性化とその事業化による雇用創出が期待される。					
実施スケジュール	具体的な事業項目		2019	2020	2021	2022以降
	(1)	糸の文化で新たな価値創造プロジェクト事業 しな織と鶴岡シルクのコラボレーション模索	→			
	(2)	しなの花活用プロジェクト事業 しなの木の花を活用した新製品研究開発	→			
	2019(平成31)年度当初予算額(千円)		1,100			

地域振興の基本方針の位置付け	次代を見据えた自治会機能とコミュニティ機能の強化							
プロジェクト名	時代に即した情報伝達手段の構築							
プロジェクトの目的	ICTを活用した「生活支援サービスも統合した新たな情報伝達システム」の構築により、人口減少や高齢化の進行に伴う地域課題の解決を目指す。							
プロジェクトの概要	<p>各自治会の重要な情報伝達手段として長年活用してきた「有線放送」設備が老朽化し、維持管理に苦慮している現状を踏まえ、ICTを活用した新たな情報伝達システムの調査研究を進める。</p> <p>手順としては、先進事例調査や生活支援ニーズの調査分析を行い、その結果を踏まえ集落懇談会や庁内プロジェクトにおける検討を経て、システムの方角性を検討し、モデル地区での実証結果を評価分析しながら本格稼働を目指す。</p>							
期待できる効果	住民が音声に加え文字により情報を得ることが可能になり、不在時の聞き漏らしがなくなる。また、生活支援サービスを付加することにより、生活の利便性の向上が図られ、定住促進が期待できる。							
実施スケジュール	具体的な事業項目				2019	2020	2021	2022以降
	(1)	ICTを活用した課題解決研究事業 ICT活用の情報伝達や生活支援の仕組み構築に向けた調査研究			→			
	2019(平成 31)年度当初予算額(千円)				337			

地域振興の基本方針の位置付け	次代を見据えた自治会機能とコミュニティ機能の強化					
プロジェクト名	地域コミュニティの基盤強化					
プロジェクトの目的	広域的な活動や交流の拠点となっている施設の機能強化を図ることにより、広域コミュニティの活発化や地域コミュニティの維持振興を目指す。					
プロジェクトの概要	広域的な利用に供している施設(温海ふれあいセンター等)については、その活用方法や管理形態を見直したうえで、施設の躯体や設備等の長寿命化を実施し利用促進を図る。					
期待できる効果	地域コミュニティの補完機能の発揮に加え、施設の長寿命化や市民需要に見合った施設利用が図られる。					
実施スケジュール	具体的な事業項目		2019	2020	2021	2022以降
	(1)	地域コミュニティ基盤強化戦略事業 広域的なコミュニティ施設の利用促進と機能強化		→		
	2019(平成31)年度当初予算額(千円)		0			



地域振興の基本方針の位置付け	海・山・自然豊かに暮らし続けられる環境整備					
プロジェクト名	資源を活かした地域活力の創造					
プロジェクトの目的	温海地域内に存する遊休資産、特に廃校の利活用については、市場性の有無や実現性の高い事業スキームについて、想定される事業者との対話により検討を行い、その活用の実現を目指す。					
プロジェクトの概要	廃校等の活用事例の視察調査や条件整理等を通じて活用イメージづくりを進める。併せて、遊休資産のサウンディング型市場調査を実施し、ノウハウを有する民間事業者との対話により施設の利活用手法を探る。					
期待できる効果	地域内の遊休資産の有効活用が見込めるとともに、活用手法によっては、地域内雇用が期待される。					
実施スケジュール	具体的な事業項目		2019	2020	2021	2022以降
	(1)	遊休資産等利活用に向けた市場調査事業 廃校利用の検討と民間ノウハウ活用に向けた取組	—————▶			
	2019(平成 31)年度当初予算額(千円)		399			

地域振興の基本方針の位置付け	海・山・自然豊かに暮らし続けられる環境整備					
プロジェクト名	地域に即した交通手段の確保					
プロジェクトの目的	地域に適した公共交通体系を構築することにより、今後増加が予想される交通弱者等の移動手段の確保を目指す。また、地理的要因により通学費負担が大きい高校生世帯を支援することにより、条件不利地であっても、地域を離れず将来にわたり暮らし続けられる生活環境の確保を図る。					
プロジェクトの概要	<p>温海地域公共交通網形成事業については、現状分析や事例収集を通じて事業手法を検討し、集落懇談会等で地域住民とも対話しながら地域に適した公共交通網を構築する。</p> <p>高等学校等生徒通学費支援事業については、一定額以上の通学費を負担している高等学校等生徒保護者に対する支援を行う。</p>					
期待できる効果	<p>交通弱者等も利用しやすい公共交通網を整えることで、買物、通院等への負担が軽減され、住み続けられる生活環境が整備されるとともに、公共交通ネットワークの形成により、人口減少に対応した都市機能の集約化、効率化が図られる。</p> <p>また、高等学校等生徒通学費支援にあつては、地域外への人口流出(転出)の抑制、地域差による子育て世帯負担の軽減、通学利用による公共交通機関の利用率向上が期待できる。</p>					
実施スケジュール	具体的な事業項目		2019	2020	2021	2022以降
	(1)	温海地域公共交通網形成事業 地域に適した移動手段構築に向けた取組	→			
	(2)	高等学校等生徒通学費支援事業 一定額を超える通学費負担に対する支援	→			
	2019(平成31)年度当初予算額(千円)		12,216			